

比治山大学短期大学部附属幼稚園(以下、本園)では、令和7年度、教育の質保証やより良い学校運営のための改善を目指し、「文部科学省 幼稚園における学校評価ガイドライン」(平成20年3月24日)に基づいて、つぎのような学校評価を実施した。

【保護者アンケート】 令和7年11月下旬 令和8年2月上旬

- ・全園児対象(142名)に幼稚園に対するアンケートを実施した。

＜実施結果 参照 ア＞

中間アンケート(教育活動について)の結果

期末アンケート(教育活動・預かり保育・課外教室について)の結果

【第三者評価】 令和7年12月9日(火)

(学外有識者4名、及び園長、副園長 計6名)

- ・令和7年度は、11月下旬に令和7年度の幼稚園運営、教育活動等13項目の観点に伴う資料を配付した。その後、幼稚園運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己点検や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動や学校運営の状況について専門的視点からの評価を受けた。

＜実施結果 参照 イ＞

第三者評価委員の方々へのアンケートの評価結果

【学校関係者評価】 令和7年6月24日(火) 令和8年3月4日(水)

(保護者会会長、元園長等関係者6名及び園長、副園長 計9名)

- ・保護者、地域住民などにより構成された委員が教育活動の観察や意見交換等を行い、評価を受けた。

＜実施結果 参照 ウ＞

学校関係者評価委員の方々へアンケートの評価結果

【自己評価】 令和8年3月

(園長、副園長、教諭7名 計9名)

- ・重点目標に対して設定した努力目標の、達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価を行った。

＜実施結果 参照 エ＞

重点目標「豊かな言葉を育む」の自己評価

【総評】

今年度は、「豊かな言葉を育む」という新たな重点目標のもと、子どもたちと過ごしてきました。

「言葉」は人と人を結ぶ大切なコミュニケーション手段の一つです。幼児期はこの大切な手段を獲得するための大切な時期だといえます。たんぼぼ組・年少組では、「言葉」を発したくなるような体験を重ね、相手に伝わった喜びを感じていくこと。年中・年長組では、気持ちや考えを「言葉」で表し、相手や場所によって使い分けができるようになること。それらを大切にしながら日々の保育を行ってきました。

保護者の皆様のアンケート、学校評価委員・第三者評価委員の方々には共に肯定的な評価をいただきました。また、改善すべき点もご教示いただきました。ありがとうございました。これからも子どもたちの「いきいき・のびのび・どきどき」した心が育まれるよう、人的・物的環境を整えるべく努力していきたいと思います。

(比治山大学短期大学部附属幼稚園 園長 中井 由里)